



社会福祉法人 敬愛会

敬愛の森だより



2023. 8. 1

8月号 No.100

発行：敬愛の森
責任者：青木 澄雄

～元気なシニアの居場所！！ 地域でいつまでも自主した生活を～

おかげさまで 創刊 100 号を迎えました

『敬愛の森だより』は新型コロナという未曾有の事態に見舞われながらも、毎月1回も途切れることなく100号まで発行することができました。簡単に振り返ってみます



2015年、地域の方々の「居場所」となる施設を目ざしてオープン。森の食堂も講演会やコンサートなども始まっています



2017年、元気な100歳を目ざして100歳クラブがスタート。11月には第一回の森の文化祭を開催し、作品展には多くの方が訪れました



2018年、高校生によるコンサートが多く開かれました。この年あたりから毎年猛暑で、脱水や熱中症の記事が多くなりました



2020年、新型コロナ感染症の大流行で3月のイベントはすべて中止、食堂も営業中止。新型コロナに関する記事や体力づくり、免疫力アップなどの記事が多くなりました



2022年、全国で新型コロナの感染者数が急増。女子高生の折り鶴作品が何度も紙面を飾ってくれました

祝『敬愛の森だより』創刊100号

『敬愛の森だより』が創刊100号を迎えるに当たり、関係するみな様に心から感謝申し上げます。開設以来、地域のみな様のご声援や数々の励ましのお言葉をエネルギーとして今日まで続けることができました。



『敬愛の森だより』は、企画する人、取材する人、編集する人、半折して配布する人、一人ひとりの献身的なボランティア精神により継続できた尊い100号です。地域のみな様と「敬愛の森」を結ぶコミュニケーション誌として育てていただきました。

私たちが『敬愛の森だより』を通じて発信する情報に対し、地域のみな様が様々な反応を示していただき、その結果として「敬愛の森」が今存在しています。残念ながら、コロナ禍により活動は制限されてきましたが、安全確認を行いつつ、早期にコロナ前の状態に戻りたいと考えています。

みな様が寄り添い、明るく楽しい生活を楽しめる地域社会の一翼を担えるよう、私たち「敬愛の森」も努力してまいります。変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人敬愛会 理事長 青木澄雄



★井上さんから100号記念のお祝いカードをいただきました

井上美保子さん

敬愛の森さんと地域の方々を結ぶ大切な情報発信紙として、毎月の配布を楽しみにしております。末永く続きますように！



離れて暮らす娘さんの話

地域とのつながりが薄い母親が、敬愛の森の100歳クラブやカラオケ、コンサートなどの行事に参加し、イキイキ暮らしているのを見るのはうれしいことです。

また、『敬愛の森だより』では体操のモデルになったり、たびたび切り絵の作品を掲載していただいたり、よい記念になりありがとうございます。

高縁慎吉さん 待ち遠しい開館

コロナ4年、これほど開館を待ち遠しく感じる施設は他にない。敬愛の森は老人会の総会、理事会、懇親会の場として利用し、会員に喜ばれてきた。



僕個人は100歳クラブに入り、毎月トレーナーの身体チェック・指導を受けたり、男の食事会にも参加し、季節の料理を堪能してきた。

森だよりには、100歳クラブの歩行訓練、男の食事会の写真、仲間との座談会など、たびたび僕が登場していて、懐かしい。

森の食堂は我が家族3人が気軽に立ち寄れる場として利用できた。食堂スタッフのみなさんと顔見知りになり、笑顔で挨拶もできるかけがえのない場である。地域住民が安心して集える敬愛の森の開館が待たれます。

桃井恵美子さん 『敬愛の森だより』を毎回楽しみに！

100号になるとのこと、すごいですね。いろいろな行事、コンサート、文化祭…本当にたくさんの行事を毎月森だよりで知り、楽しみに待つようになりました。森だよりが届くとまず見るのがイベントカレンダーでした。今は森の食堂オープンとお誕生日会再開の知らせがないか、目をこらして見えています。特にお誕生日会は最高の楽しみの一つです。

森だよりは内容も盛りだくさんで、新型コロナや熱中症の情報などを手じかに知ることができ、うれしい限りです。

いろいろな写真が私たちの目を楽しませてくれます。これからもたくさんの記事、写真を楽しみに待っています。



渡辺 繁さん 『敬愛の森だより』発刊100号によせて

「継続して発刊する」「シニアの立場でわかりやすい内容にする」「思わず見入ってしまう記事を集める」など、編集に携わった方々のご苦勞は、計り知れないものがあると思います。

私自身、趣味で始めた「切り絵」を、敬愛の森の文化祭に出展し、それを『敬愛の森だより』で紹介していただき大変に嬉しく、その「森だより」を多くの友人に見てもらい嬉しかったです。

新型コロナの影響でリアルな文化祭開催が困難になったとき、「紙上作品展」として『敬愛の森だより』で行うと連絡を受けたときは、編集者の柔軟な発想の転換に驚き、喜んで切り絵写真を掲載させていただきました。

『敬愛の森だより』という切り絵を発表する場があることは、私にとっては創作意欲が湧き、とても幸せなことです。この『敬愛の森だより』が200号、300号と長く継続発刊されることを祈っています。



渡辺さんがほのぼのした切り絵を送ってくださいました

南台団地自治会 会長 中居睦子さん ともに歩んで、これまでもこれからも

『敬愛の森だより』100号おめでとうございます！

改めて1号から99号までを読み返してみると、南台団地のイベントや多くの居住者が登場し、まさに再生の歴史がそこにありました。

思い起こせば2007年、降って湧いた「南台団地の更地・売却」。居住者一丸となって終の棲家を守る運動が展開され6割を残存させました。2015年、除却された9号棟跡地に招聘した「敬愛の森」には、居住者の並々ならぬ期待が寄せられました。そして8年、居住者の就労、文化活動、健康への取り組み、再開が切望される「森の食堂」は、地域に心休まる空間を開放し“食”を支えています。そして自治会への助け合い活動等、今も変わらぬ大きなサポートには言い尽くせぬ感謝の気持ちでいっぱいです。

南台団地はこの7月、入居開始60周年を迎えました。そして8月5日、コロナを超えて4年ぶりに「夏まつり」を開催します。今年も「敬愛の森」のみなさんの大きな応援を心からお願いいたします。『敬愛の森だより』の希望に満ちた記事の数々と洗練された編集に敬意を表し、これからの期待して連帯とお祝いの言葉といたします。



長谷川和子さん 『敬愛の森だより』100号を祝して

まずはおめでとうございます。湯原センター長はじめ、広報紙担当の橋本・木村・深澤のみなさん、毎月(毎号)楽しみに読ませていただいております。私も広報だよりに関心があり、長く自治会やシルバー人材センターの広報紙の編集に携わってまいりました。森だよりは写真が多く明るい紙面で見やすくいいですね。



最近、活字離れで新聞、雑誌などあまり読まれないようですね。漢字は読むことはできても、正しく書けない人も多く見受けられます。私は漢字の書き取り、漢字クイズなどに時間をつぶしています。これからもよろしくお願ひいたします。

看護小規模のご利用者Kさんのお母様より

『敬愛の森だより』は、スタッフのみな様が、家族のように、利用者をサポートされている様子が紙面を通して伝わってきます。

娘が利用者のみな様とお花見を楽しんでいるお写真に、娘がスタッフのみな様に支えられ、楽しく過ごしている様子が垣間見え、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

『敬愛の森だより』は情報満載で、楽しく心が和む冊子です。

★Kさんとご高齢のお母様はこのコロナ禍で3年近く会えていないそうです。会えなくても『敬愛の森だより』の写真でKさんの様子を知ることができ喜んでおられます。

広報紙担当者より：私たち2名はシニア雇用広報紙担当として、創刊号から『敬愛の森だより』に携わってきました。1号もかけることなく発行できたのは、取材に協力してくださった方々のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。

2015年創刊号のイベントカレンダーには、すでに地域の方向けのイベントが多く載っていて、“地域に開かれた施設に”という強い決意が表れています。

その後創作活動やイベントが増えていき、紹介してきましたが、年ごとに敬愛の森の敷居が低く

なり身近な存在になってきたと感じました。

新型コロナによりそれらがなくなり、内部の行事などの記事が多くなりました。ある方から、内部の様子がわかり、よかったという声があり、こういった記事も必要なのだと気づかされました。

今後は読者参加の紙面づくりもしたいと思っています。ぜひ投稿をお願いいたします。一日も早く以前のような賑わいが戻ってくるの願っていますが、その時はまた、突撃取材です。よろしくお願ひいたします！



橋本（右）：長年介護雑誌や書籍の編集に携わってきて、ヘルパー資格を生かして高齢者介護も経験している。

木村（左）：23年間介護老人保健施設の事務管理職として施設内の様々な運営に携わってきた。ヘルパー資格、社会福祉主事任用資格有。

近隣のみな様へ

猛暑が続く毎日ですが、みな様いかがお過ごしでしょうか。

お陰様で『敬愛の森だより』は創刊100号を迎えることができました。これもひとえにみな様方のご理解、ご協力のおかげと深く感謝申し上げます。

さて、今年の夏の暑さは命が危険となるほどのものです。東村山市内では熱中症で命を落とされた方もいらっしゃいました。特にエアコンをお使いにならない方や水分を十分に摂らない方の危険度はかなり高いとのことですので、ご注意ください。

「敬愛の森」入口付近に厚生労働省発行の「**高齢者のための熱中症対策**」というプリントを置いてありますので、ぜひご覧ください。

9月以降の「**森のコンサート**」は「ウクレレとフラ」「オカリナ」「バイオリン二重奏」「高校生ブラスバンド」「高校生合唱」「音大生コーラス」などを実施する予定です。詳細が決定次第『敬愛の森だより』で発表いたしますので、お楽しみにお待ちください。

働きながら介護の資格を取り、即戦力として働きませんか？

社会福祉法人敬愛会では介護の未経験者、無資格者を対象に、介護の現場で働きながら介護の資格取得を支援し、取得後も継続雇用が可能です。

支援の内容

- ① 6カ月間、配属先の事業所で介護業務を学びます。介護教育体制が充実しており、安心できる職場環境です。
- ② 期間中、資格取得のための学校に通学します。実費交通費を支給します。
- ③ 受講料は無料です。通学中も給与を支給します。
- ④ 6カ月の研修終了後も継続雇用となり、安定した収入が得られます。

応募の条件

- ① 離職中の方または離職が決まっている方で、採用日以降も他の仕事につかないこと。
- ② 「初任者研修(旧ヘルパー2級)」の資格取得を希望する方は、無資格者に限ります。「実務者研修(旧ヘルパー1級相当)」の資格取得を希望する方は、初任者研修または旧ヘルパー2級の資格を持つ方に限ります。*両方の資格取得はできません。
- ③ 社会保険加入対象となります(週4日以上働ける方)。年齢、性別は問いません。
*週3日以下を希望する方はご相談ください。

詳しくはお問い合わせください

042-306-3199 担当：川越、湯原

7月のお誕生日会

看護小規模で同じ日が誕生日のお二人は一緒に祝うのは3回目です。



ショートステイで

99歳、94歳、93歳のご長寿のお三方に大きな拍手でお祝い。99歳のKさんは「これ以上悪くならないように」と希望を述べました。



みんなで作ったショートステイの壁いっぱいの花火

グループホームのおやつ
のチョコバナナ作り。楽しそう、おいしそう



南台シニアセンター・敬愛の森
〒189-0024
東京都東村山市富士見町1-14-3
電話：042-306-3199
FAX：042-306-3198
E-mail：mori@keiaikai.org

